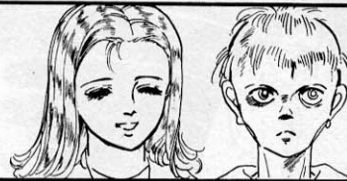
半神

わたしには
双子の妹が
います

その
おかげで
わたしの一生は
めちゃめちゃ
です

妹は
とても
美しい
のです

わたしたちは
一卵性で
腰のあたりで
くっついて
るので
はなれられ
ないのです

これは神さまのいたずらです
まあ！まあ！
ユージーとユーシーですの

まあ一緒の子なのにどういうこと
こんなに顔がちがうなんて……
この子髪バサバサよ？
ユーシーはよくしゃべれませんのよ
アー
まァこの子ママそっくり！
ほんとうに天使のようねえユーシーは
キスしたいわ！
これこそ無垢のほほえみだわ！

しかし……
一方はバラの花
一方は塩づけのキュウリだわ
まァ伯母さま…

わたしは養分のまわりがよくないんだってドクターは言ってました

あ
あら
しゃべっ
たわ！
ええ
ユージーは
おねえさん
だから……
ユーシーの
めんどうを
よくみて
くれますのよ
まァ
おりこう
なのねえ
仲もいいのね
しっかり
肩をくんで
ホホ
……
仲が
いいわけじゃ
ありません
妹は
足腰が弱くて
ささえてないと
ひっくり
かえるの
です
ユージー
ユーシーを
ちゃんと
かかえてねえ
どこへ行くにも
わたしは
妹の
ツエがわりです
そればかり
でなく
ユージー
ユーシーを
座らせてねえ
はい
ママ
ユージー
ユーシーに
ちゃんと
食べさせ
てねえ
はい
ママ
食べさせたり
飲ませたり
トイレにつれてったり

こまごまと
たいへん
なのです
ププ
クク
キャッ
キャッ
ユージー
ユーシーに
カゼをひかせ
ないでねえ
おへんじ
はあ?
外で
走り回って
遊ぶことの
できない
わたしの
楽しみは
勉強です
妹とちがって
わたしは頭がいいのです
遺伝学には特に
興味があります
家庭教師は
わたしの学力は
すでに
中学生を
追いこしてると
言いました
でも
妹は砂場で
遊びたがり
ます
もーッ
ダメッ
あー
うわわわわん
ユージー
ユーシーを
泣かせ
ないでねえ

ユージー
わたしは大学教授のパパにお説教をくらいます
ユーシーのことをかばっておやり
おまえたちは姉妹なんだよ
でもパパユーシーはわたしのじゃまばっかするのよ!
知識はあってもやさしい心はないのかい?ユージー
ユーシーが頭が弱いのはユーシーのせいではないよ
またそれゆえにユーシーは世の中の汚れを知らぬ天使でもある
そう天使だよユーシーは
卵胞の時期にきれいに二分されなかった結果を
くやんでも
しかたありません

体の弱い
妹は
よく熱を
だします
ユーシー
だいじょうぶ？
こんなに
汗が
ユーシーの
カゼは
なおったの？
よかった
わね
元気に
なって
まあ　もう
ほっぺたが
スベスベして
そうすると
妹でなく
わたしの
体中に
しっしんが
できます
熱が下がると
妹はますます
美しくなり
わたしの肌は
カサカサ
妹は
アクマの
ように
わたしの
養分を
吸いとって
いるのです
わたしは一生
こういう目に
あうのか
一生　妹への
ほめことばを聞き
妹を
かかえて歩き
妹に
じゃまをされ

一生 このいらだちとともにすごすのか
わたしの不幸はそれほど深い
いっそ妹を殺したい
わたしたちが13さいになったときドクターが言いました
ふたりとももう長くは生きてられないだろう
ママは泣きました
わたしはもう成長した妹を持って歩けません重くて
髪はぬけおち頭痛がします
唯一の方法は
ふたりをきりはなすことです

きりはなす？
わたしと妹を？
でもなぜ？ ふたりは一緒じゃないと 生きてけない つくりに なってるんでしょ？
それは こういうわけだ
天使のような ユーシーは 自分で自分の 栄養を つくれないんだ
そして きみのつくる 養分は ほとんど ユーシーの方に 流れこんで いるんだ
フル回転で きみの内臓は 動きつづけて 心臓も肝臓も くたくただ
遠からず きみは死に
きみが死んだら 自分で栄養を つくれない 妹も 死ぬ
せめて きみを 助けるために きりはなす 手術を しようと 思う
むずかしい 手術だ 成功率は ひくい
ユージー がんばって くれるね？
わたしたちは べつべつに なれる！
きせきだわ！
あぶない 手術？
かまわない！

ずっと
一緒だった
妹
美しくて
誰からも
愛された
妹
この子が
養分をとる
おかげで
わたしは
髪もはえず
誰からも
愛されないのだ
そしてどうせ
このままでは
ふたりとも
死ぬしかない
なら
きっと
手術には
たえて
みせる
そして
ひとりに
自由に
なるのだ！
妹が
その結果
死んだからって
なんだろう？
わたしがいつも
ささえて
歩いた妹
なんの悩みもなく
笑うだけの妹
自分の死にすら
気づくまい
目覚めると
……

たった
ひとりでねていた
長い夢でも
みていたようだ
妹は
別の部屋に
いるという
一カ月たって
歩けるように
なると
ドクターが言った
妹さんに
会うかい
ユージー
実は彼女は
もう
そろそろ
あぶないんだよ
キィ

わたしが
一番きらいな
自分自身の顔が
そこにあった

ユ……

これは
なにかの
トリックか
死んで
いくのは
自分じゃ
ないか

いや
やっぱりあれは
妹だ

ひからびた
なにも知らない
妹の

……死
どこへいった？
遠い旅へ
もう会えない？
いない
なぜ？
天使になった
そう……？

わたしは
回復した
体に肉がつき
少しずつ
少女らしい
体型になってきた
毎日
毎日
女の子らしくなる
顔が鏡の中にある

ユージー！
お友だちが
むかえにきたわよ！
はァい
ママ！
わたしは
16さいになり
高校に
通い
BFも
できて
すっかり
ふつうの女の子と
同じ生活を
送っている
むかしは
夢にもみなかった
毎日
ふと

だれ？

あれは

やせて死んでいった妹は

ひきはなされた半身は

《おわり》

プチフラワー 1984年1月号に掲載